

【日程】

2015/1/5-1/23 Neurosurgery

2015/1/26-2/20 Pediatrics

【ACCOMMODATION】

Taita Jing-Fu Alumni Hall

NT 800/night

ホテルの為、少々高いですが、病院の敷地内にあるので便利です。

2人でルームシェア、キッチンはない。ヘアドライヤーやアイロンはフロントで借りられます。

寮母さんは英語を話せますが、清掃のおばさんは話せません。がフレンドリーな人なのでどうにかかります。

【EXCHANGE RATE】

1 NT=3.77438742 円

円安でした。

VISA はいりません。日本からなら 90 日間 VISA free です。

【病院の構造】

3 buildings-

old building(mainly OPD) west

new building(wards) east

children's hospital

Jing Fu hotel から一番近いのが old building

すぐ近くに children's hospital

New building は old building と地下トンネル(Jing Fu tunnel)B4F でつながっている。

New building は ABCD の 4 つの棟があり、エレベーターは A/B と C/D の 2 種類、4 つずつ。

【Education/Residency systems】

台湾の医学部は 7 年制。5 年と 6 年は clerkship とよばれ、日本の 5,6 年生と大体おなじ。

7年生は **intern** と呼ばれている。卒業後は **PGY1** となり、この二つを合わせて日本の初期研修医と大体同じ。何年か後に日本と同じく医学部6年、**intern2**年の制度に変わるらしい。臨床実習をしている学部生を **clerk**、初期研修医を **intern** と訳せば通じる。

【Neurosurgery department】



NS department staff と

台湾大学、ソウル大学、京都大学で協定がある。東大の斎藤教授もよく教えに来ているらしい。

日本よりも研究する人が少なく、血管内は脳外科ではやらないが、スパインを多く担当していた。(台湾ではみんなオペをするんだよ、と言っていた)

手術件数は年間 2000 超。150-180/month, spine 50, tumor 30, vascular 10-20 etc

朝 7:15 からチーム回診、7:30 からミーティング。

私は興味があった、小児脳外科チームに配属された。

みなさん英語が達者でカンファなど普段は中国語のものも英語でやってもらえて助かった。脳の解剖用語などは英語で覚えていくべき。

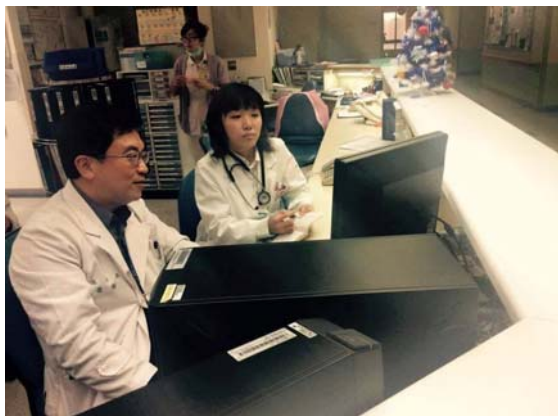
オペはスパインが多め。脳血管障害が多い印象だった。東大のようにレアな脳腫瘍がたくさんくる、という訳ではなさそう。

手術室などは大体が国際規格なのだろう、あまり日本と変わらなかったが、全体的に日本は何でもディスポなのだなぁということを実感した。オペのガウンなどは全て布で、洗濯しているようだった。

また、台湾大学を昨年引退した、現在世界脳外科学会会長の杜永光先生が時々オペをしに

いらしているようで、運良く先生のオペを見させて頂いた。小脳橋角部に出来た **Epidermoid cyst** のオペで、素人目ながらに術野のきれいさ、止血の手際などから、手術をしながらの解剖学的構造の説明、的確さ、圧倒されました。

NSに限らずと思いますが、専門化して特化した病院ではないので、**common cases** をたくさん見ることが出来、また先生方も教育熱心で、3週間で本当にたくさんのことを学ばせて頂きました。



【Pediatric department】

2月の4週間は国立台湾大学で小児科の実習をさせて頂きました。

4週間で、**General ward, Neurology, PICU, Oncology ward** の1週間ずつ回りました。

外科と違い、内科では中国語が出来ないことで少し壁を感じました。



小児科神経チームの fellow たちと。

台湾大学の小児病院は、完成して **5~6** 年程度、この1年で小児科が大学から完全に分離し独自に小児病院を運営することとなったようでした。

建物の雰囲気から制度まで、台湾で一番の小児病院を目指している最中であることがうかがわれ、小児病院が初めてだった私にはとても新鮮でした。

ちょうど現地の学生の実習と重なっている時期だったため、台湾大学 5 年の学生と共に実習を行いました。

Common disease から rare case まで全国から集まってくるため、大変勉強になりました。特に印象に残ったのは oncology ward で、ちょうど台湾の小児腫瘍学会で抗がん剤 protocol を決める conferences を毎週やっているところでした。

新しくできた学会の運営を見られる、というのも興味深いものでした。



【観光】

運良く、現地では contact person と呼ばれる、同じ学年の医学生で滞在中のお世話係になってくれる人を 2 人も付けてもらうことが出来、ほぼ毎週末どこかしらに連れて行ってもらえました。台北は地下鉄がとても発達していてしかも安いので買い物や食事には困りませんでした。

台北周辺では、淡水・猫空・九份・藍潭・烏来や様々な夜市、遠出した時は日月潭・花蓮、旧正月には実習中に仲良くなった現地の友達が住む台南、嘉義、彰化という都市で過ごしました。

台湾の方たちはみなとても優しく観光面でもとても充実した日々を過ごせました。

